まつ ね とうようじょう **松根 東洋城**(1878~1964)



俳人。東京府東京市築地(現、東京都中央区)出身。祖父は宇和島藩城代家老・松根図書。母は宇和島伊達家第8代藩主・伊達宗城の次女。本名は豊次郎。愛媛県尋常中学校(現、県立松山東高等学校)時代、松山に赴任していた夏目漱石に英語を学び、卒業後も交流を持ち、俳句の教えを受け、終生の師と仰ぐ。その後、第一高等学校(現、東京大学)、東京帝国大学(現、東京大学)を経て、京都帝国大学(現、京都大学)で学び、卒業後の明治39(1906)年、宮内省に入った。

第一高等学校時代、漱石より正岡子規を紹介され、初め『ホト、ギス』に加わったが、後に俳誌『渋柿』を創刊した。大正3(1914)年、俳句について大正天皇から御下問があった時、「渋柿の如きものにては候へど」の句を奉答した。松尾芭蕉の俳諧精神を尊び、人間修業としての俳句道を説き、連句を重んじ

た。

略歷

明治11(1878)年2月25日 東京府東京市築地に生まれる。

明治28(1895)年 愛媛県尋常中学校在学中、赴任してきた夏目漱石に英語を学ぶ。

明治30(1897)年 東京の第一高等学校に入学

明治38(1905)年 東京帝国大学を経て入った京都帝国大学を卒業

明治39(1906)年 宮内省に入る。

明治41(1908)年 国民新聞の俳壇の選者となる。

大正3(1914)年 大正天皇へ、俳句について「渋柿の如きものにては候へど」の句を奉答

大正4(1915)年 俳誌『渋柿』を創刊

大正8(1919)年 朝日新聞の俳壇の選者となる。

昭和27(1952)年 隠居を声明し、『渋柿』の選者から退く。

昭和29(1954)年1月 芸術院会員となる。 昭和39(1964)年10月28日 心不全のため86歳で永眠

(写真提供:松山市立子規記念博物館)

〈関連図書〉

- ·松根東洋城『東洋城全句集』 東洋城全句集刊行会 1966~67年
- ・『日本近代文学大系56』 角川書店 1974年
- ·山本健吉他『現代俳句集成 第13巻』 河出書房新社 1982年
- ・和田茂樹『愛媛文化双書36 子規と周辺の人々』 愛媛文化双書刊行会 1983年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 文学』 愛媛県 1984年
- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第14巻 村上霽月・松根東洋城・石田波郷』 愛媛県教育会 1986年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』 愛媛県 1989年
- ・図子英雄『ふるさと文学館 第44巻【愛媛】』 ぎょうせい 1993年
- ・松根東洋城『近代作家研究叢書 俳諧道』 日本図書センター 1993年
- ・中村英利子『渋柿の木の下で 孤高の俳人・松根東洋城の生涯』 アトラス出版 2021年

〈主な収蔵資料〉···(P225, 130)

〈ゆかりのある場所〉…(P311, 189)